



半袖が心地よい季節になりました。1年生も、どの学年も、草木がぐんとのびるように、毎日活気に満ちています。高学年は、初めての文化祭に向けて、準備もいよいよ佳境です。

6月の文化祭・オープンデーを始め、公開講座などが続きます。皆さまのお越しをお待ちしております。

オリンピック 4月29日(土)

さわやかな五月晴れの日、藤野シュタイナー学園にて3校(藤野・東京賢治・横浜)合同のオリンピック大祭が催されました。

この日のために6年生の子どもたちは、様々な準備をしてきました。5年生の世界史でのギリシアの学びを経たのち、1月から体育が専門の横地先生と共に体育の時間のうちの週1時間を使って参加種目である幅跳び・円盤投げ・やり投げ・レスリング・短距離走に取り組みました。また、手仕事の時間には当日身につけるキトン(ギリシア時代の貫頭衣)のための名札をフェルトに刺繍しキトンに縫い付ける作業を、音楽の時間や日々のリズムの時間には当日演奏するリコーダーや歌、唱える詩の練習をしてきました。4月に入ってからは、3校合同の4つのチーム(ギリシア時代のポリスの名前が付いています)に分かれ、週1回藤野に集まり、親睦を深めつつ合同で練習する機会も持ちました。

日に日に期待と緊張が高まる中、前日には一通りの練習を学園近くの練習場で行い、準備万端。レスリングの練習は、場所の都合で教室で行いましたが、熱気あふれる応援が校舎中に響き渡り、これを聞きつけた7年生のみなさんと横山先生、それに長井先生、昌実先生も応援に加わってください、充実した仕上げとなりました。

((感想)) ちょっと肌寒いですが、快晴の中開かれた3校合同の藤野でのオリンピックに父兄として参加しました。準備体操、聖火の点灯、開会宣言の後、競技が始まりました。

幅跳び、円盤投げ、やり投げと淡々と競技が進む中、個人的に一番興味をそそられたのは、花形の中距離走でも、リレーでもなく、レスリングでした。レスリングは校庭でなく、体育館で行われました。(りっぱな体育館です。)

体育館の中央に10メートルほど離れて、5メートル四方ぐらいのマットが2つ敷かれました。これが競技スペースで、そのまわりに生徒が2組ずつ(対戦相手)、マットを囲んで、男女に分かれて座ります。マット上には、青色のゴムテープでさらに、3メートル四方ほどの大きさの枠が作ってあります。相撲で言えば、これが土俵に当たります。"観客"は体育館の壁沿いに、マットから5メートルぐらい離れて座り、かなり接近した場所、云わば"桟敷"で競技を見ました。対戦の組の入れ替えでは観客も各々の組のマット横に移動しました。

当日は、それぞれの持ち味を発揮し各種目に取り組んでいました。オリンピックのテーマである「美しさ」を身体面ばかりでなく、精神面においてもあらわすことができている、応援する姿や開閉会式でのとりくみなど、いたるところで見えていただくことができ、こどもたちの成長に胸が熱くなりました。閉会式の表彰の場面で父母の皆さんに用意していただいたオリーブの冠を頭に載せて誇らしげに、でも少しはにかんだように微笑むひとりひとりの姿が目には焼き付いています。この日を支えてくださった父母の皆さま、そして先生方に深く感謝いたします。

(6年生担任 黒沼亜矢)



レスリングは個人の格闘技であり、勝敗がその場ではつきりつきます。子供たちがこれをどのように競技するのか、興味津々でした。競技方法ですが、お互いにまっすぐ腕を伸ばした状態でがっちり両手を組み、相手を"土俵"の外に押し出すと勝利です。どの子も顔を真っ赤にしてがんばっていました。対戦中は各組から選手に"がんばれ!"という声援が飛びます。なかなか勝負がつかず、途中で"水入り"となり、いったん組手はずして、手の汗をぬぐう対戦が数多くありました。また、最後まで勝負がつかず、時間切れで引き分けの対戦もありました。4組の総当たりで対戦したので、一人ひとりこれを3回ずつ戦ったこととなります。

印象に残ったのは、勝っても負けても子供たちがきちんと最後の挨拶をしてマットから降りていたこと、負けた子が元の場所にもどるときに、組のほかメンバーが「がんばったね」と"タッチ"で迎えていたことです。朝の5時半に起きて藤野まで見に来た甲斐を一番感じさせる競技でした。

(6年生保護者 永島和暢)

●アジア会議に参加して

4月28日から5月4日まで韓国で開かれたアジアシュタイナー学校教師会議に学園から5人の教員が参加しました。(私は用事で一日半早く帰りました) 韓国、中国、タイ、マレーシア、フィリピン、インド総勢300人参加、非常に中身の濃い、学ぶことの多い大会でした。

プログラムは子供が毎日シュタイナー学校で過ごすように流れていきます。8時半にリズム遊びから始まり、手足を動かしいろいろなリズムでカノンにしたり、歌を歌ったりしました。それからアジアの一国の言葉で高学年の朝の言葉、次に皆でそれを英語で唱えてメインレッスンに移っていきます。今回毎朝の基調報告は、ドルナツハの教育部門のヴィーヘルトさんが行いました。テーマは「アントロポソフィーを社会治療のカへ」

「教育の目的は霊魂と身体を統合すること。現代はそれがますます難しくなっている。」という始まりで、シュタイナー学校での授業、リズム、数、歴史、教師の立ち方、担任と専科、具体的な例をあげてユーモアを交えながら、本質的なことを語ってくださいました。休憩を挟んで分科会に分かれて学習し、昼食後は芸術科目が行われました。

午後のおやつのは、韓国のシュタイナー学校の子どもたちによる発表、その日によって歌や踊りオイリュトミー、コンサート等が行われ、心のもった贈り物を受けました。夜は各国の参加者たちから自国のシュタイナー教育の報告や文化の紹介があり、一日が終わります。

韓国で行われるということで、事前に日韓の関係を歴史教育の視点から問うという投げかけがありました。それを踏まえて二日目の夜に行われた日韓の話合いは心深く刻まれるものとなりました。

韓国はまだ早春で草花が芽吹き、桜が咲いていました。植物の生態系は日本本土と変わらず、日本の山里にいるようでした。いつもそのやり方でよいのかどうかわかりませんが、行ってみないとわからないことが今回もたくさんありました。あまりに心揺さぶられることが多く、またシュタイナー教育においても現実の課題の大きさと多さに圧倒されています。これからどんなふうに残された短い時間をこの教育にささげていくか考え始めています。

(オイリュトミー専科 隅田みどり)

♪教員リレーエッセイ ~全校ピクニック~

5月10日金曜日に、初めての全校ピクニックが行われました。どのクラスの子どもたちも、わくわくどきどきして待っていたことでしょう。

霧が丘校舎からは、先頭を2年生と4年生が手をつなぎ歩き、次に1年生と5年生と一緒に、そして最後に3年生が歩いて新治の森まで行きました。2年生は、4年生と何かをするのは初めてのこと。一緒におしゃべりをしながら歩いていく子ども、少し緊張ぎみで4年生と歩いていく子ども。

里山交流センターに着くまで約30~40分歩きました。暑い日だったこともあり、低学年は歩けるかなあと少し気になりましたが、皆、無事につきました。途中、鬱蒼とした森の道に入るとひんやりと気持ちよく、鳥のさえずりが聞こえました。沼地の脇を通ると、カエルや虫の声も聞こえ、子どもたちは道端の草を抜いたり、小川を覗きこんでは虫を探したり、足で土を蹴ったり。自然を味わいながら歩いていました。

里山交流センターに着き、十日市場校舎の子どもたちと合流すると、みんなで歌をうたい、踊り、猛獣狩りにいくぞ~という遊びをしました。広場の後ろの林に猛獣がいる、というお話があると「ようし、あの林の中に猛獣がいるんだな。さぁ狩りを始めるぞー。」と高学年。「え~あの林に猛獣がいるの?本当?こわい。どうしたらいいの。」と心配そうな低学年。けれど、猛獣狩りはみんながお友達になれるとても簡単に楽しい遊びでした。横地先生が、ライオンと言えば、ライオンは4文字。それで近くにいる誰かと4人組になるというものです。とにかく周りにいる人と

急いで4人組になる子ども、ぼんやりしている低学年を高学年がさっと手をつないでくれ、学年を越えて楽しく遊ぶことができました。また、住んでいる地域別に分かれ、お互いの名前を知り、顔を知り合いました。何かあったらお互いに声をかけあい、助け合おうということも話された貴重な機会でもありました。

お楽しみのお弁当は芝生に座り、クラスでかたまることなく食べました。その後、思い思いの遊びをし、みんなでさよならの歌をうたい、霧が丘校舎の子どもたちは来たときと同じように戻り、十日市場の子どもたちは、クラスによりそれぞれのルートで帰って行きました。

帰り道、1年生の子どもが疲れたのか歩けなくなりましたが、一緒にいた5年生の何人かがかわるがわる1年生の先生と共におんぶをしながら学校まで戻ったそうです。そして、おんぶする人たちの荷物を5年生のクラスメートが持っていったそうです。誰が頼んだのでもなく、お互いを助け合いながら快くやってくれた5年生はとても素敵でした。そしてそんな5年生を見た1年生の心にも何かが響いたことと思います。私はいつも感心するのですが、上級生が下級生をととてもかわいがってくれます。去年の1年生である私たちもそうしてもらいました。これから2年生も上級生たちのようにあってほしいと思います。

こうして全校ピクニックは終わりました。学年を越えた交流ができたとても良い一日となりました。おうちに帰った子どもたちはきっとバタンキューだったでしょうね。また是非やりたいものです。

(2年生担任 小林裕子)

ユネスコスクール支援大学・玉川大学訪問の報告

ユネスコスクールの活動の一環として、3月26日、玉川大学を訪問しました。訪問したのはオイリュトミー専科の隅田みどり、ユネスコスクール活動グループメンバーの学園事務局・佐藤雅史。同大学でユネスコスクール推進の中心を担う小林亮先生（教育学部教授）のお話をうかがいました。

「玉川大学はユネスコスクール支援大学として、東京・神奈川・静岡地域を支援する役割を担っています。ユネスコスクール推進のために横浜とのつながりができることは大歓迎です。これから密に連絡を取り合っていきましょう。玉川大学の学生の横浜訪問もぜひ実現させてください」。そうおっしゃる小林先生はたいへんフレンドリーなお人柄。隅田、佐藤ともすぐに意気投合し、たいへん充実した話し合いとなりました。

小林先生はまず、日本や世界のユネスコスクールの動きを丁寧にご説明くださり、私たちの学園の可能な取り組みについての詳しいアドバイスもいただきました。以下、先生とのやりとりのまとめです。

●横浜のユネスコスクールの活動の可能性

一般の学校でよく取り組まれているのは、持続発展教育（ESD）のカリキュラム化というアプローチです。有名なのは、江東区八名川小学校（校長・手島利夫先生）の「ESD カレンダー」。学校のカリキュラムを ESD の観点に照らして構築し直し、単元間の関連性がわかるような表にまとめたもので、ESD 実践の参考資料として全国的に活用されているものです。

横浜シュタイナー学園の場合は、今あるカリキュラム自体が申し分のない ESD なので、その内容に対して ESD 的な意味づけを行い、わかりやすくまとめるだけで貴重な資料が出来上がります。それを他校が活用することで、ESD への理解が深まり、応用が広がれば、日本のユネスコスクール全体に大きく貢献することになると思います。

また、新たな取り組みを考えるのであれば、ユネスコスクールの4つの柱となる基本分野を眺め、そこから整理してみるとよいでしょう。

1. 地球規模の問題に対する国連システムの理解
2. 人権、民主主義の理解と促進
3. 異文化理解
4. 環境教育

（4つの柱の詳細は以下のページでご覧になれます）
http://www.unesco-school.jp/?page_id=125

この中でシュタイナー教育が得意な分野として思いつくのは、多文化共生への取り組みだと思えます。グローバル化する世界のなかで、アジア市民、地球市民として生きていく力を育むことは、コスモポリタニズムを軸に持つシュタイナー学校の得意分野だからです。

（学園では1年生から二カ国語の言葉に親しみます。その目的は、実用のためではなく、異なる文化が内包する「質」を身をもって経験することです。また、学園の9年間の授業全体が、多様性に満ちた世界と自分との関係を築いていけるように編まれている等々。このテーマで場はひとしきり盛り上がりしました。）

●アジアのなかのユネスコスクール

上記のほかにも、たくさんのお話を共有しました。そのなかで、小林先生がユネスコスクールの大きな課題と考えているのは、「アジア地域における多文化共生」というテーマです。最近、小林先生は韓国のユネスコスクールを訪問されました。熱い歓迎を受け感動する一方で、学校の玄関には竹島の巨大な写真パネルに「独島は私たちの領土」との大書き。生徒たちは「独島の歌」を歌うのだそうです。

ユネスコの掲げる異文化理解、国際交流、平和の希求という精神と、愛国主義的な方向性との矛盾。小林先生は「この現実を前にユネスコスクールのネットワークは無力的なのか」と問い、「むしろユネスコスクールだからこそ、この矛盾を乗り越えていく道筋を築けるのではないか」との思いを抱いているとのこと。

その話題から、小林先生が長く住み、肌で経験したヨーロッパとアジアの精神性の対比へと話は進みました。数多くの国が国境を接するヨーロッパは、領地争いにあけくれる戦争の歴史をもっています。一方で、第二次大戦後のドイツが選択した贖罪の歩みや、ユネスコの呼びかけで始まったドイツ、フランス、ポーランドの共同歴史教科書への取り組みに象徴されるように、ヨーロッパには困難な歴史を克服していく懐の深さを感じると先生はおっしゃいます。それはどうしてなのか。

佐藤は、「そのようなヨーロッパのしなやかさは、社会が「個」の原理を内包しているところから生まれるのでは」と問い直しました。ヨーロッパの市民社会の層の厚さは、明らかに「個」の原理が深く根付いていることを示している。そこがアジアに欠けている部分ではないか。小林先生もそれに同意してくださり、「シュタイナー教育から多くを学べる領域ですね」とおっしゃいました。そして、自立した「個」のつながりが国家という境界線を越えた人々の関係性づくりを可能とする。そのためにユネスコスクールのネットワークが意味を持つ、ということを確認しました。

●心の教育

小林先生は臨床心理を専攻され、スクールカウンセラーの経験も積まれた方です。その専門の立場から、「心の教育」がユネスコスクールの未開拓の領域として見えてくる、というお話も印象に残りました。

不登校、いじめ、孤立化、未来への不安、クラス・カーストなどの問題は、意外にもユネスコスクールとしての取り組みとしては聞こえてこない。しかし、これらの問題こそ、ユネスコスクールが取り組むべき優先課題ではないか。

以上のような数々のテーマを共有し、小林先生、隅田、佐藤それぞれの経験や考えをキャッチボールのようにやりとりするミニ・フォーラムは2時間以上に及びました。終了後は広大な玉川学園のキャンパスもご案内いただきました。平日午後ということもあって、教員やユネスコ活動グループからの参加が隅田、佐藤だけだったのが残念です。またの機会を待ちたいと思います。

今年の11月30日、12月1日には、東京都多摩市でユネスコスクールの全国大会が予定されており、玉川大学は多摩市と共同主催者として運営に当たることとなります。学園も何らかのかたちでお手伝いできればと思います。

（ユネスコ活動グループ／事務局 佐藤雅史）

インフォメーション

6月15日(土) オープンデー&高学年による文化祭

霧が丘校舎 11:00~15:00

教室公開/教育展示『横浜シュタイナー学園の9年間の学び』学園のあゆみパネル展示/ミニ説明会/相談コーナー/こどもむけワークショップ/軽食販売/文具や小物の販売

十日市場校舎 11:00~15:30

7,8,9・10年生教育展示/発表会(13:15~14:00)

文化祭の出し物(お楽しみに!)

~どなたでもご参加いただける学園説明会~

ミニ説明会 12:00~12:30 霧が丘校舎(保育なし)

学園説明会 14:30~15:15 十日市場校舎(保育あり)

※大人の方対象の説明会です。お子さんの同伴はできません。

※十日市場校舎の保育は、事前にお申し込みください。(定員あり)

※駐車場はありません。上履き・靴を入れる袋をご持参ください。

7月7日(日) 公開講座「1年生になるということ」

10:00~12:00 会場: 横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

※12:00~12:30 は、学園ミニ説明会を予定しております。

神田ひとみ(5年生担任)・小林裕子(2年生担任)

参加費: 一般 2,500円(学園NPO会員 2,000円) 定員 40名

※保育のお申し込み、お問い合わせは、7/2(火)正午まで

※各自上履きをご持参ください。

建築講座3回シリーズ 年間テーマ~関係性~

1、「形」7/10(水) 2、「人」10/31(木) 3、「色」1/16(木)

講師: 岩橋亜希菜氏

※詳細は、今後のニュースレターやHPにてお知らせしていきます。

校内見学会

学園では毎月1回、校舎をご覧いただく機会を設けております。

日程: 7/19、9/27、10/25、11/22、1/24、2/28(いずれも金曜日)

時間: 15:30~16:30

場所: 霧が丘校舎 参加費: 無料

なるべく事前にお申し込みください(当日参加も歓迎です)。

お子様連れも可です。お待ちしております。※お子様の上履きをご持参ください。

教員を交えての茶話会のお知らせ

シュタイナー学校のことを少しでも知っていただく機会になればと、今年度、定期的に茶話会を催します。

日時: 7/18、9/26、10/24、11/21、1/23、2/27、3/13

いずれも木曜日 10:00~12:00

場所: 横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuken-info@yokohama-steiner.com

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替: 00260-0-130702

加入者名: 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行: 店番029 支店名029店(せりふ店) 当座0130702



星の金貨

スクールショップ「星の金貨」では、子育て講座や催し物、バザーにて出張販売いたします。

シュタイナー関係の書籍や、文房具、木工品、フェルト小物、編みぐるみなどご用意できます。

場所は、東京・神奈川でしたら伺えますが、詳しくはご相談ください。

お問い合わせは、e-mail: hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

NPO会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加・支援を希望される方はどなたでもNPO会員になれます。総会や中間報告会へご参加いただけたり、学園主催の各種催しに会員価格でご参加になれます。また紀要冊子「野ばら」(年2回)とニュースレター(年10回)をお届けしています。

会費: 12,000円/年(分割払い可)

ニュースレター購読メンバー募集

紀要冊子「野ばら」(年2回)・ニュースレター(年10回)をお送りいたします。会費: 2,000円/年

NPO会員/ニュースレター購読メンバー更新のお願い

今年度も是非ともご支援をお願いいたします。

継続ご希望の方は6月末までに更新手続きをお済ませください。よろしくお願いいたします。

寄付者のご報告(順不同・敬称略)

皆さまからのあたたかいご支援で、学園は支えられています。ご寄付を寄せていただき、ありがとうございました。

◎3月6日から5月15日の期間

加藤洋子、冠木友紀子(日能研)、萩原妙子、山本忍(神之木クリニック)、水野徳子、山下里美

◎1/1日から3/3「よこはま夢ファンド」を通して 香川裕子

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第60号

2013年5月23日発行

編集: 広報の会

発行: NPO法人 横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載はお断りします。